



日用品や古本、コーヒーなどの販売が行われた

町並みの広場の活用をみんなで考えよう 有志が「坂町の市フリーマーケット」を開催

「坂町の市フリーマーケット」が4月8日、森文醸造(株)の工場跡地で開かれ、約200人が訪れました。新しくできる広場について一緒に考えようと近隣の有志が企画。コーヒーや古本の販売ブースの他にアイデアの募集コーナーもあり、「緑ある安らぎの場」「イベントができる公園」など多くの意見が寄せられました。有志の一人・山内大輔^{だいすけ}さんは「誰もが集える憩いの場になれば」と話しました。



会場限定で新作ワインも販売された

ワイン好きの集い 「第11回内子夢わいん祭り」

「第11回春の内子夢わいん祭り」(同実行委員会主催)が4月15・16の両日、観光ふじブドウ園で開かれました。延べ800人が訪れ、6種類のワインの試飲や販売、ワインに合わせて用意された料理などを楽しまました。内子ワイナリーの藤渕利通^{としみち}代表理事は「集客への不安はあったが、リピーターからの再開を願う声がうれしかった。少しでも内子を活性化できれば」と思いを語りました。



「元気にやりよるよ」と110個の小包を準備

おばあちゃんの優しさも詰めて—— 小田の春をお届け、みのりの「ふるさと小包」

豆入りやタケノコ、小田うどんなどを詰め合わせた「春のふるさと小包」の発送準備が4月20日、田渡地区で行われました。箱詰めするのは「加工所みのり」の皆さんで、懐かしいふるさとの味を届けたいと24年前から続けています。代表の福岡敬子^{けいこ}さんは「ほとんどがメンバーの手作りの品。ふるさとの風景を思い起こしながら、小田の春を味わってほしい」とほほ笑みました。



集めたごみを分別する内子児童館の子どもたち

みんなでごみを拾って地域をきれいに 地球環境を考える1日「アースデイ」

世界各地で環境保全活動を行うアースデイに合わせて「アースデイ in UCHIKO^{うちこ}」(エコ好き内子他主催)が4月22日、郷ノ谷川周辺で開かれました。参加した26人は川沿いを2時間かけて清掃。ペットボトルや空き缶など約54^{キロ}のごみを集めました。主催者の1人の伊達環美^{たまみ}さん=上宿間=は「多くの人が気軽に参加できるようにして、当たり前前の活動にしていきたい」と願いました。

満開の桜に笑顔はじける 町内各地で「さくらまつり」

桜の満開に合わせて4月上旬、町内各地で桜を愛でる祭りが開かれました。

立石地区では1・2の両日、「立石まるごと春まつり」(立石を愛でる会主催)が行われ、地元の特産品や手作りの餅などを販売。新設された約12^{メートル}のバーベキュー台では焼き鳥を焼いて、来訪者を喜ばせていました。

石畳地区では2日、「石畳東のシダレザクラ祭り」(石畳東地区主催)が行われ、多くの人でにぎわいました。名物のそばをエプロン姿で運ぶ小学生のかわいらしい姿に、訪れた人たちも笑顔の花を咲かせます。同日、「長岡山さくらまつり」(城廻自治会主催)が行われたのは四季の詩公園。ハンドメイドや綿菓子などの出店が並んだほか、こま回しや竹馬の昔の遊び体験があり、会場には子どもたちの楽しそうな声が響いていました。同自治会長の長岡靖人^{やすひと}さんは「久々の祭りらしい祭り。子どもたちの笑顔にも元気をもらえた。またやらないけんな」と顔をほころばせていました。

知清河原では「お花見屋台村」が行われるなど、町内で待ちわびた春を楽しむ姿が見られました。



1_尾首の池で春の訪れをみんなで楽しむ 2_四季の詩公園では子どもが楽しめる催しもたくさん 3_お手伝いの小学生から石畳のそばを受け取る来場者 4_クラフトビールなども用意された知清河原での花見会

材料を集めて凧を完成させよう 工作と探索で楽しむ「タコゲーム」

謎解きと凧作りを組み合わせた「タコゲーム」が3月26日、五十崎凧博物館で開かれ、21人が参加しました。高校生もボランティアスタッフとして協力。ミニゲームなどの企画を盛り上げ、親子や友人同士で参加した子どもたちを喜ばせていました。友達2人と挑戦した稲月新太^{あらた}さん(12)=豊秋町=は「凧作りも謎解きも楽しくて、小学生最後のいい思い出になった」と笑顔で話しました。



材料集めに必要なキーワードを探して館内を巡る

春の小田深山で仲間との出会い 大自然の中で過ごしたとおきの3日間

「春山ネイチャーキャンプ2023」(ソルファ・オダ(株)主催)が4月4～6の3日間小田深山で開かれ、町内外から25人の小学生が参加しました。火おこしや藍染め体験をしたほか、深山の食材で料理を作るなど、ここでしかできない体験を体いっぱい楽しんでいました。参加した子どもたちは、「見たことのない植物がいっぱい」「初めて自分で火を起こせた」と声を弾ませました。



小田深山の自然を思いきり体感する子どもたち